



2015年8月 第13巻第8号

### かく語りき—聖人の言葉

「我が子よ、心は、疾走する野生の象のようなものです。だから、いつも識別が必要なのです。神を悟るために努力なさいなさい」

(シュリー・サーラダー・デーヴィー)

「瞑想を会得すれば、心は、風のない所にともるランプの灯のように揺るぎない」

(シュリー・クリシュナ)

### 今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・2015年9月の予定
- ・マハーラージ、札幌で講話
- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

### 9月の予定

- ・生誕日

シュリー・クリシュナ・ジャンマシュ  
タミ 9月5日(土)

スワミー・アドヴァイターナンダジ  
ー 9月12日(土)

### ・協会の行事

9月1日(火)、15日(火)

10:00~12:30

火曜勉強会

場所：逗子協会本館

※前日までに必ず予約をし、昼食が必要かどうか併せてお知らせください。

benkyo.nvk@gmail.com

\*マハーラージは9月4日~6日は逗子協会を不在にします。

9月5日(土) サットサンガ in 飯塚

お問い合わせ：小林 090-8624-1145

9月6日(日) サットサンガ in 福岡

お問い合わせ：サリ 090-4982-3522

9月6日(日)、13日(日)、20日(日)、  
27日(日)

14:00~15:30 ハタ・ヨーガ・クラス

場所：逗子本部新館アネックス  
お問い合わせ：080-6702-2308 (羽成淳)  
\*体験レッスンもできます。

9月12日(土) 14:00~16:00  
東京・インド大使館例会  
講演：バガヴァッド・ギーター(無料)  
場所：インド大使館 : 03-3262-2391  
お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

9月13日(日) 10:30~14:30  
逗子例会  
テーマ「霊的な生活のチャレンジ  
Part3」  
お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

9月17日~21日 マハーラージ、マ  
ニラ訪問

9月25日(金) ナラ・ナーラーヤナ  
(ホームレス神様への奉仕活動)  
現地でのお食事配布等  
お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304

9月26日(土) 13:30~17:00  
関西地区講話  
場所：大阪研修センター  
内容：「バガヴァッド・ギーターとウパ  
ニシャッドを学ぶ」  
\*詳細は協会ホームページの「特別プ  
ログラム」をご覧ください。

9月27日(日) 14:00~16:00  
サットサンガ in 東京ヨガセンター

場所：東京ヨガセンター  
内容：「自分の思考・行動の傾向をつく  
るもの」

\*詳細  
<http://www.tokyo-yogacenter.com/>

9月26日(土)~27(日) ナマステ  
インドア(東京・代々木公園)  
日本ヴェーダータ協会は「ガンガー  
CDショップ」という店名で出店  
書籍、CDの他 数々の品物を特別価格で  
出品予定  
<http://www.indofestival.com/index.html>

## マハーラージ、札幌で講話 (田辺美和子さん寄稿、一部編集)

スワミー・メーダサーナンダ・マハ  
ーラージは、2015年8月2日(日)13  
時半から17時まで、札幌エルプラザ大  
研修室にて「人はなぜ生まれ変わるの  
か~Law of Karma and rebirth~」を  
テーマに講話なさいました。過去の参  
加者の有志が準備するこの講話会は、  
去年に引き続き札幌市の後援を得、今  
回で9回目、31名の参加となりました。  
初めての方、久しぶりの方が約半数で、  
釧路、旭川、苫小牧、ニセコ、石狩な  
ど遠方からもお越しいただきました。  
今回は初めて、講話内容に沿った資料  
が準備され、配布されました。祈りの  
マントラを唱えて始まった講話は、非  
常に濃厚で多岐に渡ると思われるテー

マにもかかわらず、マハーラージは90分という時間で、初めてのかたにもわかりやすく、かつ深淵に、そして我々を鼓舞するようなお話にまとめてくださいました。トピックを拾ってご報告いたします。



みずからの前世を見事に語る少女の実話から講話は始まりました。彼女は前世での住まい、家族、職業についてはっきりと詳細を語ったそうです。当時（80年ほど前のインド）ガンジーさんが調査委員会を立ちあげたそうですが、少女の話はすべて現実と証明されました。彼女は若くして病死したため夫や子供はまだ生きており、それで事実の確認ができたのです。

こうした人びとの例のほか、遺伝子は同じなのに性格が異なる双子や、幼いときから音楽その他の才能が傑出している人びとの説明は、物質的な要因（遺伝子、環境、訓練）では出来ません。幽霊の説明も不可能です。またすべての宗教が死後も人の存在は続くと言明していること、お葬式やお盆などの儀式が伝統的に続いていることはどのように説明しますか？ 死がすべての終

わりであるならば、死者に対する儀式が社会でこれほど根付くわけはありません。ベースに正しいことがあるからこんなに長く続いているのです。

深く考えてください。これは我々にとって、とても大事なこと。なぜなら我々は生まれたからには絶対に死ぬからです。そしてこの講話は否定的、悲観的な話ではない。この講話は全体的、ホリスティック的な話。その一部分が「良く生きる」、そしてもう一つの部分が「良く死ぬ」。To live well and die well. 我々にとって、両方、大事ではないですか？

「How to have a good death. どのように良く死ぬか」のポイントは、①知識をもって死ぬ、②勇気をもって死ぬ、③平安・安心・幸せをもって死ぬ、です。「死は避けることができない」「仕方がない」「今は考えたくない」、それは否定的な考え。死の恐怖が出ます。ですがもし知識があれば、勇気をもって死ねます。その知識によって「肉体が亡くなっても“私”はなくなるらない」という理解を得るからです。理解を得てこの人生をよく生きる。すると安心します。また、死後も生前と同様、神様に面倒を見てもらっていると考えれば、平安な気持ちになります。他方、その知識がない人の死のイメージは、darkness 暗さしかありません。

「知識」すなわち「死ぬとはなにか」の理解のため、まずは自分の人格をはっきり知ることが大事。それは、我々の存在は3つの身体——粗大な体（肉体）・精妙な体（生命エネルギー、感覚、心、知性、記憶）・原因の体（自我）——と魂から成っているということ。魂（内なる自己、アートマンとも言う）は体の源、基礎であり、その本性は意識（非物質）です。一方3つの体に意識はなくそれらは単なる物質であるが、しかしながら、なぜ肉体や心は動き働いているのか？ それは「魂の意識を借りて」働いているのです。そして、3つの体は物質だから有限で一時的。しかし魂（意識）は永遠、無限、自由。



そこまで理解できれば、次の理解はとても簡単になる、「死ぬとはどういう意味ですか？」。それは「魂が、精妙な体と原因の体を運び、粗大な体から離れる」ということ。そして再生とは「離れたあと、新しい粗大な体に入る」ということです。すなわち死とは、悲しいことでも怖いことでもない。今までの古い体は病気や年で大変でした。だ

から新しい体に入って、そこでまた、新しいエネルギー、新しい経験、新しい勉強をする。そのことを考えれば、死とは「人生という大きな本のひとつ章の終わり」に過ぎない。Death is the beginning of the new chapter of life. その態度があれば、死を怖がることはありません。死を嬉しいとさえ思うかもしれません。

では、死後、どのくらいその状態でいるのか？ 天国に行く、地獄に行くはどのように決まるのか？ それが theory of Karma、カルマの法則で決まります。カルマ（サンスクリット語）とは、働き（活動）と思い（考え）。そしてカルマというとき、「カルマとカルマの結果」という意味も入ります。またカルマには3つの種類があり、それらは、サンチター（前世のカルマすべてのストック）、プララーブダ（そのうちの今生の部分）、クリヤマーナ（今生での新しいカルマ）です。また、カルマは傾向も生みます。何回も良いカルマを重ねれば良い傾向、何回も悪いカルマを重ねれば悪い傾向。そして、死ぬとき、魂は精妙な体と原因の体だけではなく、カルマと傾向も一緒に運んでいきます。

カルマはストックされ続けます。なぜなら我々は始終何かを願っているから。願いを満足するために働くから。それは、【欲望→満足→働き→働きの結果→

新しい欲望→・・・】という感じで続いていくサイクルのようです。そしてそのサイクルが続く間、我々は再生し続けます。

しかし何が問題か？ 識別すると分かります、人生の90%は苦しみ悲しみで、10%だけが楽しみであるということ。ほとんどの人は、10%の楽しみに希望を見出すことで、90%の苦しみを気にしないで生きています。しかし、霊的な人はその束縛（食べなくてはいけない、飲まなくてはいけない、寝なくてはいけない etc.）を気にし、避けたいと願う。なぜなら私の本性は魂です。魂は自由です。しかしその魂が体に入ると体の奴隷になる。それは大きな矛盾だからです。

そして賢い人は、「もう再生したくない」「解脱したい」と望みます。解脱とは、ふたたび生まれえないという意味です。解脱の否定的な意味は、苦しみ悲しみを避けたい。肯定的な意味は、解脱とはとても至福の状態、最高の幸せ、最高の知識の状態、サット・チット・アーナンダです。魂の本性はそれでしょう？ それで解脱したいと考える。

しかし、願うだけでは解脱できません。解脱の実践が大事です。その実践は、「ふつうの世俗的欲望を避ける、なくす」。その代わりに「解脱を願う」。すなわち、欲望をなくすために「識別を

すること」と、「真理（神様、アートマン、ブラフマン）のことを集中して考えること」。この実践をして亡くなる前に欲望が無くなれば解脱できます。解脱、すなわち苦しみ悲しみがなくなる、そしてサット・チット・アーナンダとなる。



Q&A では、さまざまな質問が出されました（休憩中に質問を提出してもらいました）。たとえば、Q：死後、魂が精妙体と原因体を運びますが、それらが物質であるならいつかは終わりが来ると思うのですが、それはいつですか？ Q：自我（原因体）がなくなるときは、ほかの魂と一体になるということですか？ Q：死ぬとき、神を思って死んだら解脱するのですか、それとも天国の最高の段階に行くのですか？ Q：7つのレベルの天国のどこに行くのかは、どのようにして決まるのですか？ Q：幽霊が体に入って来るのを防ぐ方法がありますか？ Q：見たことも聞いたこともない神様のことをどうやって友達と思えばいいのですか？ Q：皆が解脱をするとどのような世界になるのですか？ Q：人間の寿命は決まっていますか？ もし決まっているなら、自然災害で亡くなった方も寿命ですか？

Q: 病気になってから実践しても間に合いますか？ マハーラージはこれらの質問にきびきびと、誠実に、わかりやすく答えてくださいました。

会の終わりには、マントラについての説明と、オーム、そしてガーヤトリー・マントラを唱えて、「内容の濃い講話会」（参加者の声より）はこれで散会となりました。その後 17 時半からは 14 名の参加を得て、会場近くで夕食をとりながらマハーラージを囲んでのサットサンガとなり、講話会の感想をシェアしました。札幌での講話会開催は今のところ年に一度ですが、今年は 4 月に『バガヴァッド・ギーター』の集中講義が開催されたり、また講話を必ず聞きに来てくださる方も年々増え、真理を学ぶ貴重な機会だという意識が定着してきたような気がします。はるばるご来札いただき、長時間休むことなく指導していただいたマハーラージ、そしてタクール、マザー、スワージーに心から感謝いたします。

最後にある参加者の感想をご紹介します——「この講話会は、いつも私の心の根っこの部分に、安らぎと安心の水をたっぷりまいてくれます。そして何年たってもその水は、心の根を潤してくれています」



## 忘れられない物語

### 機織り女のたとえ

師は言われた。「一つ、話をきいてください。あるとき、ある女が機（はた）織りをしている友達を訪ねた。さまざまの絹糸を紡いでいた機織り女は、たいへん喜んでこう言った。『友よ、あなたにお目にかかれたうれしさは言いようありません。ちょっと召し上がり物を持ってきますから』そして部屋を出て行った。

女はさまざまの色の絹糸を見て誘惑され、一束をわきの下に隠した。機織り女はやがて食物を運んで戻ってき、一心に客をもてなしはじめた。しかし、糸を見て、友が一束をとったことを知った。

それをとり返すために一策を案じ、こう言った、『あなた、久しぶりにお目にかかることができほんとうにうれしい。私にとってきょうはよい日です。』

いっしょに踊ってくださいませんか』すると友達も、『お姉さん、私もほんとうにうれしく思います』と言い、二人はいっしょに踊りはじめた。ところが友だちが両手を挙げないで踊るのを見て、機織り女は、『あなた、両手を挙げて踊りましょうよ。こんなうれしい日なのですもの』と言った。

しかし客は、片腕はわきにつけ、片腕だけを挙げて踊った。機織り女は、『どうしたのですか。なぜ片手だけ挙げて踊るのですか。両手を挙げて私といっしょに踊りなさいよ。ごらんなさい。私はこうして踊ります』と言うのだが、客はなお、片腕はわきにつけ、もう一方の手だけを挙げて踊り、微笑して、『私はこういう踊り方しか知らないのです』と言ったという」

師はつづけられた。「私は腕をわきにつけるようなことはしない。私の手は両方とも自由だ。私は何ものも恐れない。ニッテャとリーラーの両方、絶対者と相対界との両方を認めている」

(『ラーマクリシュナの福音』第 25 章より)

## 今月の思想

「初めに、必要なことをやり次に、できることをやりなさい。そうすれば、あるとき不意に、不可能なことをやっているでしょう」

(アッシジの聖フランチェスコ)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: [info@vedanta.jp](mailto:info@vedanta.jp)